



〔平成30～34年度版〕

秋田県立ゆり支援学校 道川分教室 教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

1 病院への訪問による重度・重複障害教育の実践

本分教室は、独立行政法人国立病院機構あきた病院の重症心身障害児（者）病棟に入院中の児童生徒を対象とし、病院より職員室と学習室（2室）、教材保管用倉庫の施設を借用し、訪問による教育を行っている。授業時数は、週5日14単位時間（経口での食事指導のある児童生徒は16単位時間）である。

児童生徒の実態や病状、配慮事項等について、普段から病棟の医師・看護師・リハビリ担当者ときめ細かく情報交換しながら教育活動に当たっている。

日常的に児童生徒の実態や状態の的確な把握に努め、病院との連携を図りながら、安心・安全な教育環境の下で、一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の充実に努めている。

2 児童生徒数の減少を見越した分教室の運営

現時点では、未就学児や学齢児の入院がほとんど見込まれない状況である。平成13年度より高等部に過年度卒業生が在籍してきたが、平成29年度の入学生が最後となった。新たに平成30年4月に就学猶予・免除者3名が入学し、小学部・中学部各1か年、希望者は高等部3か年の在籍予定である。平成31年度以降は分教室における児童生徒数の減少が予測される。

〔在籍児童生徒数（見込み）：平成30年度10名、31年度7名、32年度5名、35年度1名〕

そのため、分教室の存続を含めた在り方や運営組織、学習室等の教育環境に関する検討が必要である。

3 地域とつながる活動の継続実施

地域の小・中学生やボランティアとの交流活動、ICTを活用した他県の病弱特別支援学校との交流、作品展示などの継続を通して、児童生徒の経験の拡大や理解啓発を図ってきた。また、全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟に加盟し、病弱教育に関する研修会等へ参加し、教職員の専門性向上に努めている。

これまで蓄積してきた成果を整理し、交流活動の継続実施や重度・重複障害教育の継承を図るとともに、病弱教育に関するセンター的機能の推進方策について明確化する必要がある。

II 目指す方向性・学校像や児童生徒の姿

◇児童生徒の生命と人権を尊び、発達の可能性を追求し、豊かに生きる力を培う

○児童生徒一人一人の実態や特性、教育的ニーズに応じた教育内容、方法の改善を図り、児童生徒の緩やかな成長を促す。

○重度・重複障害教育に関し、これまでの教育内容・方法等を整理し、継承するとともに、県内関係特別支援学級及び特別支援学校に発信する。

◇病弱教育に関わる専門性を生かし、情報提供する学校

○全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟の加盟校として県内関係機関や関係校のニーズに応じた情報提供を行う。

○秋田きらり支援学校と共に病弱教育に関するネットワークを構築していく中で、病弱教育に対する支援方法を探るとともに、情報提供に努める。

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

目標 1 児童生徒の生命と人権を尊び、発達の可能性を追求し、豊かに生きる力を培う教育活動の充実

取組(1) 一人一人の実態や特性、教育的ニーズに応じた教育課程の編成と授業づくり

- ①的確な実態把握に基づく指導目標の設定と指導内容の精選
- ②保護者及び児童生徒本人の願いを反映した指導計画の作成（保護者との面談を5月、10月、2月に実施）
- ③ケース検討会（年3回）・授業づくり検討会（年3回）による授業改善
- ④外部専門家を招へいた分教室授業研究会の実施（年3回）

取組(2) 地域資源（施設、人材等）やICTを活用した教育活動の展開

- ①個別学習及び様々なグルーピングによる集団学習の実施
- ②交流及び共同学習の実施：本校交流（年1回）、ボランティア人材活用交流（年5回）、県外病弱特別支援学校との交流活動（年3回）、地域の小学校との交流及び共同学習（岩城小学校5年・6年生、各年1回）
- ③児童生徒の実態に応じた校外学習の実施（アトリオンピクニックコンサート、道川海岸等）
- ④インターネットを活用した双方向同時中継やタブレット型端末の利用（実践紹介集の作成）

取組(3) 病院との連携

- ①病院・学校連絡会（年2回）、学校・病棟連絡会（月1回）、病棟との情報交換会（年2回）、病棟連絡（毎日）等の実施
- ②リハビリ参観、病院主催研修会、病院総合防災訓練等への参加
- ③「ボランティア人材活用交流」及び「夏を楽しむ会」等における病棟患者との交流
- ④卒業生への追指導・支援（前年度高等部卒業生を対象に年20回程度実施）
- ⑤病院の行事（病院まつり、誕生会等）への協力
- ⑥病院職員による学校評価の実施

目標 2 病弱教育に関わる専門性向上及び情報の発信・提供

取組(1) 病弱教育に関わる職員の専門性向上

- ①重度・重複障害教育に関する実践の蓄積・整理
- ②分教室内における学習会・研修報告会（年5回）の実施
- ③本校自立活動研修の受入（年間5人程度）や授業研究会への参加（年3回）
- ④全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会への参加及び実践発表

取組(2) 県内における病弱教育に関するネットワークの活用推進

- ①ニーズに応じた支援内容・方法や情報の提供（特別支援教育セミナーへの協力）
- ②秋田きらり支援学校や県外病弱特別支援学校との連携継続（研修会開催の協力、年2回）
- ③ホームページによる情報発信